



「かながわ人づくりコラボ2021」を振り返って

かながわ人づくり推進ネットワーク幹事会

幹事長総括

- 昨年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため「かながわ人づくりコラボ2020」の開催を見合わせたところですが、今年度の「かながわ人づくりコラボ2021」は、会場の規模を縮小した実地開催の状況をオンラインでライブ配信するという、ハイブリッド形式での開催としました。
- 当日は「3.11から学ぶこれからの防災・減災～防災教育の現場から～」を全体のテーマとして、文部科学省で安全教育調査官としてご活躍されている森本氏による講演をはじめ、神奈川新聞社の記者である渡辺氏と県立西湘高校で防災を担当している千葉氏による取組紹介や話を基に、教育論議を行うことができ、多様な視点を含むコラボになったと思います。
- 森本晋也氏による講演では、「今、求められる防災教育の充実～震災を生き抜いた子供たちに学ぶ～」という演題のもと、国の防災教育の考え方をご説明いただいた上で、釜石東中学校で防災担当の教員として取り組んでいた経験を踏まえ、震災当時の状況や、そこを生き抜いた生徒への聞き取りの結果、震災前に取り組んでいた防災訓練の実践例などについて、臨場感や実践的な視点を持ってお話しをいただきました。防災は日頃の準備が非常に大切であるとともに、災害を自分事として捉え、主体的な行動をできるよう想定や訓練をしていくことが重要だと、あらためて気づかされる内容であったかと思えます。
- そして、教育論議では、講演をいただいた森本氏に引き続きご登壇いただくとともに、防災教育の現場をよく知る方という視点から、防災教育の実践者である県立西湘高校の千葉海氏、記者として多くの現場取材してきた神奈川新聞社の渡辺渉氏のお二人を交え、日本大学の佐藤晴雄氏の進行のもと、登壇者4名によって、日頃の実践例から見えてくる課題やその解決方法などについて、短い時間ではありましたが、様々な視点から話し合うことができました。
- 講演や教育論議での話し合いを通じて、東日本大震災から10年という節目で、あらためて当時の状況を思い返すとともに、子どもたちの「いのち」を守るために何が必要か、何ができるかについて、参加者それぞれが考えるきっかけになったと思います。今後とも、学校現場をはじめ、それぞれの立場から自分事として活動に取り組んでいただけるよう、よろしくお願い申し上げます。
- 私たちネットワーク参加団体は、各団体の取組みを尊重しつつ、毎年開催している「かながわ人づくりコラボ」での教育論議を通して、教育ビジョンの「心ふれあう しなやかな 人づくり」をめざして、『思いやる力』『たくましく生きる力』『社会とかかわる力』の育成を、それぞれの立場と役割を自覚しながら取り組んでいきます。今後とも参加団体の皆様には、より一層のご尽力をいただきますよう、引き続きよろしくお願い申し上げます。

※詳細な結果概要は、県教育委員会ホームページか、かながわ人づくり推進ネットワークホームページに掲載している「『かながわ人づくりコラボ2021』の実施結果の概要」をご覧ください。

【コラボ2021の開催概要】※敬称略

- 1 日時・場所 令和3年10月30日(土) 14:00～15:40 県立総合教育センター 講堂
【参加者(会場)96名、(オンライン)213名】
- 2 テーマ 3.11から学ぶこれからの防災・減災 ～防災教育の現場から～
- 3 プログラム
 - (1) 講演「今、求められる防災教育の充実～震災を生き抜いた子供たちに学ぶ～」
(文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課安全教育推進室 安全教育調査官 森本 晋也)
 - (2) 教育論議 [テーマ：学校・地域の実践例から考える実践的な防災・減災について]

<教育論議の登壇者 ※敬称略 >

◎コーディネーター

日本大学 文理学部 教授 佐藤 晴雄 ※かながわ人づくり推進ネットワーク幹事

○パネリスト

文部科学省 安全教育調査官 森本 晋也

神奈川新聞社 報道部記者 渡辺 渉

県立西湘高等学校 教諭 千葉 海

《教育論議での主な意見》

- ・ 災害は他人事と考えやすいが、D I G訓練等を通じて、自分のいる地域に係るリスクを把握していくことが、自分事と考えるためには重要である。
- ・ 取材の中で、学校の教員や生徒だけでなく、地域の住民や支援者の方が集まって、D I G訓練を行うことで、多くの気づきがあるとあらためて感じた。
- ・ 実践例やその反応から、見る、聞く、動く等の体験的な学びが有効であると感じた。
- ・ 学校の教員には人事異動があるので、継続性に課題があると思うが、本業とは別に、学校の防災教育や避難所の訓練等に積極的に参加してくれる等、地域の中に継続して、支援や関わりを持てる人がいるというのが非常に大切だと思っている。
- ・ 地域と一体となった活動については十分にできていないというのが学校現場の実感としてある。
- ・ 学校現場では、授業以外にも特別活動や部活等の様々な取組があるため、防災・安全教育はこれから絶対に必要なことだと思う反面、後回しにされがちという実情があると思う。あらためて教育現場全体で、安全が重要であるという意識に変えていかないといけないと感じている。
- ・ 国としても、防災や安全が学校現場で必ずしも上位にないということは課題だと思っている。災害がいつ発生するかわからない状況では意識を高く保つことは難しいと思うが、持続的な取組は重要である。そのためにも、地域と連携して取り組む中で、学校・地域双方でメリットを実感していくことが大事だと思っている。

《今後の方向性》

- ・ 防災教育という時間はないが、学習指導要領の改訂により、高校では地理総合が必修化され、その中に防災が盛り込まれている。また、小学校の社会科での防災についても充実してきている。そして、これらを学ぶ際には、教科横断的な学びを実現できるよう、外部人材の活用も含めた教育課程の編成が今後より一層重要となる。
- ・ 教科横断的な学びの実現に向けては、子ども達が様々な課題を自分事として捉え、主体的に学ぶことが重要となってくる。そうした姿勢を育むために、地域にある身近な課題に気づき、取り組むことがきっかけになると思うので、地域と連携、さらに言えば、協働・コラボレーションしていくことが重要と考えている。
- ・ 熊本県では、避難所運営のために、高校にコミュニティ・スクールを導入することになった。これは防災型コミュニティ・スクールというもので、マニュアル作成や防災教育に地域の方の知見を活かしていこうというものであり、熊本県の特徴の一つとなっている。
- ・ あらためて、リスクマネジメントで大事なこととして、意識、知識、経験の3つがある。今回のコラボの中でも、この3つの視点が盛り込まれていたと思う。